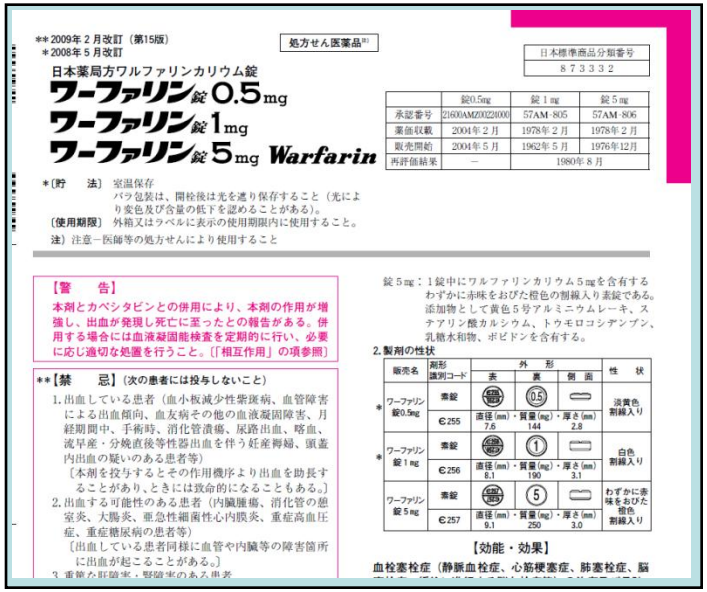
抗凝固薬ワルファリン療法の投与プロトコール作成と処方設計

＜治療上の重要性＞

- 脳梗塞予防等に広く使用される。
  （推定使用患者数：100万人）

＜注意点＞

- 薬が効きすぎると副作用(出血)がある。
- 薬が効かないと致死的血栓が生じる。
- くすりの投与量に、大きな個人差がある。



**2009年2月改訂（第15版）
＊2008年5月改訂

処方せん医薬品[注]

日本薬局方ワルファリンカリウム錠
ワーファリン錠0.5mg
ワーファリン錠1mg
ワーファリン錠5mg Warfarin

日本標準商品分類番号
8 7 3 3 3 2

	錠0.5mg	錠1mg	錠5mg
承認番号	21600AM00228000	57AM-805	57AM-806
薬価収載	2004年2月	1978年2月	1978年2月
販売開始	2004年5月	1962年5月	1976年12月
再評価結果	—	1980年8月	

＊〔貯　法〕室温保存
パラ包装は、開栓後は光を遮り保存すること（光により変色及び含量の低下を認めることがある）。
〔使用期限〕外箱又はラベルに表示の使用期限内に使用すること。
注）注意－医師等の処方せんにより使用すること

【警　告】
本剤とカペシタビンとの併用により、本剤の作用が増強し、出血が発現し死亡に至ったとの報告がある。併用する場合には血液凝固能検査を定期的に行い、必要に応じ適切な処置を行うこと。〔「相互作用」の項参照〕

**【禁　忌】（次の患者には投与しないこと）
1. 出血している患者（血小板減少性紫斑病、血管障害による出血傾向、血友病その他の血液凝固障害、月経期間中、手術時、消化管潰瘍、尿路出血、喀血、流早産・分娩直後等性器出血を伴う妊産婦婦、頭蓋内出血の疑いのある患者等）
〔本剤を投与するとその作用機序より出血を助長することがあり、ときには致命的になることもある。〕
2. 出血する可能性のある患者（内臓腫瘍、消化管の憩室炎、大腸炎、亜急性細菌性心内膜炎、重症高血圧症、重症糖尿病の患者等）
〔出血している患者同様に血管や内臓等の障害箇所に出血が起こることがある。〕
3. 重篤な肝機能・腎機能のある患者

錠5mg：1錠中にワルファリンカリウム5mgを含有するわずかに赤味をおびた橙色の割線入り素錠である。添加物として黄色5号アルミニウムレーキ、スナアリン酸カルシウム、トウモロコシデンプン、乳糖水和物、ポビドンを含有する。

2. 製剤の性状

販売名	剤形識別コード	外形 表	外形 裏	外形 側面	性状
＊ワーファリン錠0.5mg	素錠 ©255	直径(mm)・質量(mg)・厚さ(mm) 7.6 144 2.8			淡黄色割線入り
＊ワーファリン錠1mg	素錠 ©256	直径(mm)・質量(mg)・厚さ(mm) 8.1 190 3.1			白色割線入り
ワーファリン錠5mg	素錠 ©257	直径(mm)・質量(mg)・厚さ(mm) 9.1 250 3.0			わずかに赤味をおびた橙色割線入り

【効能・効果】
血栓塞栓症（静脈血栓症、心筋梗塞症、肺塞栓症、脳

↓

医師の手間が大きく、経験に基づく処方ではリスクも大きい。

↓

医師・薬剤師の共同による投与プロトコールの作成と効率化。